



「平成26年8月丹波市豪雨災害義援金」にご協力をお願いします



平成26年8月16日の大雨などにより、丹波市において人的被害や住家被害が発生しました。この災害で被災された方々の生活再建の一助とするため、義援金を受け付けています。

ハートちゃん

義援金名：平成26年8月丹波市豪雨災害義援金
口座番号：みなと銀行 本店営業部 普通1871585
口座名義：日本赤十字社兵庫県支部 支部長 井戸敏三
受付期間：平成26年10月31日(金)まで
問合せ先：振興課直通 TEL:078-241-8921

その他：(1)みなと銀行の本支店間の窓口(ATM含む)による振込手数料は無料となります。(インターネットバンキング、ダイレクトバンキングを除く)
(2)受領証が必要な場合は、振興課までお問い合わせください。(所得税などの税控除を受ける際には、受領証が必要です)

お寄せいただいた義援金は、手数料などを一切いただきず、全額を被災された方々へお届けしています。

丹波市豪雨災害に対する兵庫県支部の対応

避難所に避難された方々を支援するため、避難所などで使用する安眠セットを8月18日に100セット、26日に30セットお届けしました。

キャンプマット、枕などが入った安眠セット



大切な命を守る知識と技術を広める



赤十字では、世界中の人に救急法(ファースト・エイド)を知ってもらおうと9月の第2土曜日を「ワールド・ファースト・エイド・デー」と定め、世界各地でイベントなどを開催し普及活動をおこなっています。

9月20日、イオン明石ショッピングセンターにて、心肺蘇生とAED(自動体外式除細動器)の使い方の体験会を開催。体験後の参加者からは、「胸骨圧迫は思ったより力があることがわかった」「こういった機会があれば何度も参加したい」などの感想をいただきました。また、同日、神戸総合運動公園にて開催のサッカージュニアを支えるママたちのイベント「サカママフェスタ」にも参加し、91名の方に体験いただきました。

講習のご案内

お問い合わせは、お電話またはホームページで **078-241-1499** (講習係)

人が倒れていたり、苦しんでいるのを見かけた...そのような場面に居合わせたとき、「心配だけど、どうしていいかわからなかった」そんな経験はないでしょうか？
日本赤十字社では、万が一の病気やけが、災害などに備え、大切な人の命を救う方法や健康で安全に暮らすための知識や技術を身につけてもらう講習をおこなっています。

救急法基礎講習	科目別講習 講習の一部のテーマを短時間で習得できます。	
12/7⑧ 13:00~17:30	幼児安全法講習 こどもに起こりやすい事故の予防と手当について 12/19⑨ 10:00~12:00	幼児安全法講習 こどもの一次救命処置 12/19⑨ 13:00~15:00
救急法救急員養成講習(2日間のセット講習) 12/13④・14⑤ いずれも9:30~17:30	救急法講習 骨折の手当と搬送法 12/19⑨ 10:00~12:00	救急法講習 AEDを使用した一次救命処置 12/19⑨ 13:00~15:00
救急法基礎・救急員養成講習(3日間のセット講習) 12/20④・21⑤・23⑥ いずれも9:30~17:30		

◇申込期日は開催日(初日)の一ヶ月前までです。 ◇会場は日本赤十字社兵庫県支部です。

ひょうごの赤十字

2014 OCTOBER 10月

生き抜く力を育成



- もしもに備え、さらなる連携強化を
- 広く世界に目を向けて
- いざというとき、皆で助け合えるように
- 「平成26年8月丹波市豪雨災害義援金」ご協力をお願い
- 大切な命を守る知識と技術を広める
- 講習のご案内

日本赤十字社 兵庫県支部
Japanese Red Cross Society

〒651-0073 神戸市中央区臨浜海岸通1丁目4番5号

078-241-9889



赤十字 兵庫 検索



生き抜く力を育成

～青少年赤十字防災キャンプ2014～

9月14～15日、播磨灘に浮かぶ姫路市家島の県立家島高等学校にて「青少年赤十字防災キャンプ2014」を開催しました。

今回が初開催となる防災キャンプは、次代を担う青少年に、自然災害時、ライフラインなどが途絶えた状況下にあっても生き抜くために必要な知識や技術の習得と、ボランティアの心を育て、自助・共助の大切さを実践的に学んでもらうことを目的としています。キャンプには、高校生メンバーのほか、先生や防災ボランティアなど62名が参加。神戸地方気象台による講演、災害時に役立つもの作り、ハザードマップの見方、要支援者の避難誘導や非常食作り体験などがおこなわれました。

講演では、地震や津波、台風の基礎知識をはじめ南海トラフ巨大地震の想定、台風の接近時に警戒しておくことなどを学んだり、緊急地震速報の発表にともない自分を守る行動をとる訓練も。

災害時に役立つもの作りでは、空き缶とサラダ油を使ったランプ、段ボールを使った簡易トイレ、ペットボトルを使った簡易シャワー作りなどを体験。メンバー達は、慣れない道具に戸惑いながらも、身近にあるもので役立つものが作れることに感心していました。

また、ハザードマップで学んだ危険箇所や避難場所、避難経路を確認した後、実際に車いすや毛布を使った担架での搬送、ブラインドウォークで要支援者の避難誘導を体験。ただ搬送するのではなく、上り坂や下り坂のときに頭や体をどちらの方向にした方が要支援者が安心できるか、思った以上に力があるなど、「気づき、考え、実行する」という青少年赤十字の3つの態度目標も実践できていました。

そのほか、体育館などの学校施設で1人毛布1枚で寝泊りする避難所環境も体験。バーベキューやキャンプファイヤーもおこない、メンバー同士の親睦も深めていました。

参加したメンバーからは、「被災者の大変さがわかった」「災害に対する意識が確実に変わった」などの感想がありました。

段ボールを使って簡易トイレを作成中。



車いすの避難誘導を体験。思った以上に力がいる必要がわかった。



非常食の昼食とは一転。

バーベキューを堪能しご満悦♪



広く世界に目を向けて

～青少年赤十字国際交流事業～

8月20～26日、第4ブロック(近畿2府4県)合同の青少年赤十字国際交流事業がおこなわれました。この事業は、人間のいのちと健康、尊厳を守るとともに、広く世界に目を向け今後活かしていくことを目的としています。今回の交流には、県内加盟校から2名が参加。シンガポールとマレーシアに滞在し、海外メンバーとの交流、現地の赤新月社や学校訪問、ホームステイなど貴重な体験をしました。



ホストファミリーと食事をする田中さん(左手前)

【参加メンバー県立加古川東高等学校の田中真由さんの感想】

私は今回が初めての海外で、とても新鮮な気持ちで臨みました。一番印象に残っていることは、「日本との文化・宗教の違い」です。両国は多民族国家で、さまざまな人種が自分たちの文化・宗教にしっかりと誇りをもっていました。私たちも、自分の国の文化や宗教にもっと誇りをもつことが大事だと思いました。また、「生活環境の違い」にも驚かされました。日ごろ当たり前だと思っていたことが、一歩日本を出るとそうではないことを身に染みて感じました。

そして、ホストファミリーや現地の方々、訪問した学校の生徒たち、みんなが笑顔で優しく接してくれ、人の心の温かさは世界共通だと感じました。今回、この研修に兵庫の代表メンバーとして参加した責任は、今すぐに果たせるものではないと思いますが、これから必ずこの経験を活かせる瞬間は来ると思います。この研修で多くのことを学ぶことができ、人として少しでも成長できたと思います。



いざというとき、皆で助け合えるように

～各地域で赤十字奉仕団が研修会を開催～

日本赤十字社には、「住みよい地域社会をつくろう」という思いの人々によって市区町村ごとに組織された地域赤十字奉仕団があります。高齢者支援活動や児童の健全育成活動など地域に根ざした活動のほか、災害発生時には救援物資の配分や炊出しなど被災者支援活動をおこないます。

まもなく阪神・淡路大震災から20年。震災の教訓から、普段からの防災活動をはじめ、近隣や地域社会とつながり、支えあう関係づくりが地域の防災力を高めることがわかりました。

このことから、兵庫県支部では、災害発生時にすぐに対応できるよう、地域の最前線で活動する地域赤十字奉仕団の研修会を繰り返し開催しています。



介助する側とされる側を体験した食事の介助

8月20日に相生市民会館にて開催し、西播磨地区の各地域赤十字奉仕団(相生市、たつの市、赤穂市、太子町、上郡町、佐用町)と青少年赤十字加盟校の生徒など197名が参加。非常食づくりやテント設営、食事の介助などに取り組みました。中でも、参加者の笑顔が絶えない和やかな雰囲気となった癒しのケア研修。手のひらで相手の肩や腕、背中をゆっくりとさすりながらスキンシップを取ることは、不安や心身の疲労などから生じるストレス緩和に役立ちます。実際に体験すると緊張もほぐれ、参加者同士が自然にコミュニケーションを図ることもつながりました。

9月6日に香住文化会館にて開催し、香美町赤十字奉仕団45名が参加。日本海沖を震源とした地震による津波被害や南海トラフ巨大地震被害など、身近な題材を取り上げ今できる備えについて学んだほか、心肺蘇生とAEDの使い方など、いざというときのために懸命に取り組みました。高齢者や負傷者などの歩行困難者を搬送する方法を身につけてもらう車いす搬送では、想像とは異なる乗り心地に負傷者役の参加者から、「少しの段差でも押してくれる人の声掛けがなければ不安になる」といった感想も聞かれました。



声掛けの大切さを実感した車いす搬送

災害時は、地域で協力し助け合うことで多くの命が救われます。地域の防災力を高めるため、今後も各地で研修や訓練をおこなってまいります。



もしもに備え、さらなる連携強化を

～兵庫県合同防災訓練に参加～

「防災の日」を翌日に控えた8月31日、南海トラフを震源とする巨大地震と津波を想定した「兵庫県合同防災訓練」が開催され、兵庫県支部と神戸赤十字病院の救護班が参加しました。メイン会場となった潮芦屋フリーゾーンでは、津波警報伝達訓練や避難所開設・運営訓練、高所からの救出、倒壊建物からの救出、海上漂流者の捜索・救助、多重衝突事故救出、救援物資輸送訓練などがおこなわれました。

この訓練で、応急救護所設置・運営訓練として、dERU(国内型緊急対応ユニット)の仮設診療所用エアートントや災害救護用ベッド、医療資機材などを設置し、県内13医療機関の救護班や消防などとともに、搬送されてくる重症者のトリアージや医療処置などをおこない、関係機関との連携による公助の充実強化に取り組みました。



応急救護所に運ばれた重傷者を処置する神戸赤十字病院救護班

いのちと健康を守る赤十字活動は、皆さまからお寄せいただく活動資金で成り立っています

活動資金にご協力をお願いします

郵便局・ゆうちょ銀行からもご協力いただけます

口座記号番号：01110-0-1136
口座加入者名：日本赤十字社兵庫県支部

※窓口で取扱いの場合、振込手数料は無料です。